

くまさんだより

日本基督教団 豊橋東田教会

〒440-0055 愛知県豊橋市前畑町 112 ☎0532-54-3435

ホームページ <https://azumada.org/> 武井恵一牧師 080-3428-3200

2019年

3月号

3月17日発行

イラストは全て池谷陽子さんご提供

3月10日 受難節第一主日礼拝説教

「私達は今既に神の子」武井 恵一牧師

ヨハネの手紙一 2章28～3章6節 新約聖書443～444頁



❖今日はヨハネの手紙一の序論から、本論に入るところ、とても大切なところにかかります。この手紙を受けているキリスト者全体が「これまでにない神様の領域」に入って行くところです。先週の個所は「決定的な序文」でした。26節がそれを現しています。

26節は「以上、あなたがたを惑わせようとしている者たちについて書いてきました。」と区切りを明らかにし、「御子から注がれた油」として、「御子の油＝聖霊」が、既に手紙を読んでいる教会の「キリストの中にある」現実を強調されました。私たちに「勇気と、神様の聖なる力が与えられる」ところです。

❖「だから、教えられたとおりに、御子〔主イエス〕の内にとどまりなさい。」と、ここから新たな段落になります。「神の子たち」と、新共同訳聖書では小見出しが入りました。

「神の子たち」と小見出しがついている2章28節から、続く聖書の言葉を受け止めましょう。

ヨハネ手紙一 2章28節

²⁸さて、子たちよ、御子の内にもつとどまりなさい。そうすれば、御子の現れるとき、確信を持つことができ、御子が来られるとき、御前で恥じ入るようなことはありません。

キリスト者ではない隣人に、これが「御子の内にもつとどまりなさい」とは、どう説明できるかでしょうか？ もちろん、相手の人が、あなたと親しい関係で、いくらかでもキリスト教

のことを知っていれば、多分、話にはなるでしょう。けれど、難しいことは確か……ですね。でも、いきなり聖書の言葉を語るよりも、「その人が受け入れる言葉で」、普通に話す。その人に役立つことを見つけ、普通に、身近に、触れ合う機会を得て、その人のために行い、話す機会を得る。

❖ヨハネやパウロは、難しいことを百も承知で人々に話しかけ、神様、イエス様、聖霊の神様について話し、少しずつ親しくなって、ユダヤ教の集会所などで人々に話し、何度も何度も語りかけ、少しずつ集まる人を増やし教会を建てました。これは歴史が語っています。無理にではなく。本当の真理をもつて。

❖けれど、話すのではなく議論になったら、どの人も自分の考えを持っていますから、特に日本ではとても難しいでしょう。

でも、仏教国と言える中国や、ミャンマーやスリランカでも、キリスト教の伝道は伸びていると聞きます。



❖初めっから「出来るはずがありません」と思う前に、最初はそろりそろり、親しくなって、それから教会に案内するのが実際的な道です。むしろ、第一に問題なのは「キリスト教を信じていると自任している私たち自身かもしれません。」

キリスト者になると、礼拝への参加などで「信仰自身の成長」は現実起こっています。父なる神様、御子イエス・キリスト、聖霊の神様はこの世界におられ、人間を様々な形で『救われる』実際の存在です。手探りの信仰からキリスト教会につながるの、「安心、恵み、そして喜び」の入り口です。これは、しっかり約束されています。この「信仰の土台」が大切です。誰にでも必要です。

❖それだけでなく、「私たちの生涯は、やがて、確実に永遠の命につながる神の国の人生」に続きます。

ヨハネ手紙一 3章1節

「御父がどれほどわたしたちを愛してくださるか、考えなさい。それは、わたしたちが神の子と呼ばれるほどで、事実また、そのとおりです。世がわたしたちを知らないのは、御父を知らなかったからです。」

ヨハネは信仰の全てをもって、こう断言しています。

使徒ヨハネは私たちの教会を「福音の喜びを繰り広げる教会」として、まったく身内のように「信仰の全てをもって」呼びかけました。

❖ヨハネの教会群は、歴史的に「私たちの、日本の教会と同じ立場」です。時代も環境も、地域も全く別な存在ではありますが、片や更に拡大している「ローマ帝国の武力の権威。大国の力」。片や再び世界を目指し人間中心ではなく、利益と繁栄・独善的力によって急ぐ日本の「経済と政治・行政の力」。このような状況下に日本のキリスト教は弱小存在を自任して立っています。ローマ支配下の、苦しい現実のただなかにながら、使徒ヨハネは「あなた方も、三位一体の神様によって、その信仰の力、神の子の力を世

に現しなさい」とキリスト者を力づけました。ヨハネは「人間中心の世界を『三位一体の主が進められている愛と義の世界』、神様により、主イエスによって既に来た世の全てを生かす『神の国』を確信して進みなさい。」「永遠の命の福音に、あなた方の心と魂と祈りを向けなさい」と呼びかけています。

❖キリストの福音を進める生きた教会は、「今、ヨハネからの手紙が届いた教会だ！！」と私たちに自覚を促す「主の教会」です。

言い換えるならば、使徒ヨハネはわたしたちに向かって、まさしく言葉も風習も、生き方さえも、まるで違っているままに「同じ『神の子たち』として、日本の教会にも宛てて重要な手紙を發している現実」がわたしたちの前にあります。この、ヨハネによる手紙は、主イエス・キリストによって使徒ヨハネに与えられ、命じられた手紙と、わたしは受けとめます。

❖これは、現実、現代のキリスト者にも向けられている手紙です。この手紙の大切さについて、わたしはこれからも、何度も申し上げ、「日本の人々に、この世で苦しみの中にある人々に」發信し、心を込めて伝えます。皆さんもどうか發信してください。あなたのお隣りにいる方々へお伝えください。



❖キリスト教の福音は「神様の愛」によって進みます。けれど、このきっかけは、既に教会に属している方々の努力が大切です。現在の日本では、ここが最重要。しかし、この動きが進んでいません。

次の様に使徒ヨハネは確信をもって言います。

ヨハネ手紙一 2章29節

²⁹あなたがたは、御子が正しい方だと知っているなら、義を行う者も皆、神から生まれていることが分かるはずです。

もちろん、「人間は少しでも上の立場に、少しでも楽な立場に」と言う本能的欲求があります。けれど、親しく、丁寧に話し合うチャンスが与えられれば、「喜びと、安心と、幸い、そしていつも希望が持てる人生」の話は、人間ならだれでも求めたい人生でしょう。キリスト者は、あなたは、この人生を生きます。

ヨハネ手紙一 3章1節

¹御父がどれほどわたしたちを愛してくださるか、考えなさい。それは、わたしたちが神の子と呼ばれるほどで、事実また、そのとおりです。世がわたしたちを知らないのは、御父を知らなかったからです。

❖この言葉は真理であり。真実です。

この言葉を知り、この言葉を心に置き、この言葉によって生きている人間＝キリストを信じる人々が実際に、世界中に沢山生きて、伝道しています。

「キリストを信じる生き方」、この生涯を生きる人が世界中にいる事実を、日本の人々は知っているのでしょうか。ほとんどの日本人はこれを漠然と聞く程度で、実際の事として聞いたことはないでしょう。これは残念ながら現実です。そして今、あなたがその近くにいます。

❖世界中の、キリスト者の存在と信仰は本当です。「また、実際にわたし自身が、この言葉通りに、わたしの人生で体験し今も、この日本で、キリストを信じる人生の中を生きて」います。

「そんなことが、しかも、しかもボケ始めているこの牧師に、本当に体験できたはずがない。どう見ても、それは信じられない。」

多くの方がそう思われても不思議とは思いません。けれども、まじな話、いや、本当にまじめに言って、苦勞やとんでもないことをたくさん経験してもいますが……わたしは、恵みと愛の内に生きてきました。

3章1節から3節を改めて朗読します。

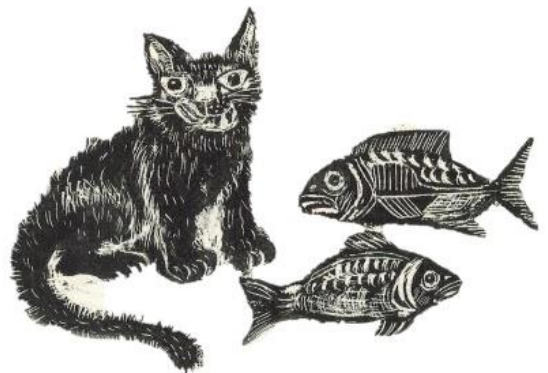
ヨハネ手紙一 3章1～3節

¹御父がどれほどわたしたちを愛してくださるか、考えなさい。それは、わたしたちが神の子と呼ばれるほどで、事実また、そのとおりです。世がわたしたちを知らないのは、御父を知らなかったからです。²愛する者たち、わたしたちは、今既に神の子ですが、自分がどのようになるかは、まだ示されていません。しかし、御子が現れるとき、御子に似た者となるということを知っています。なぜなら、そのとき御子をありのままに見るからです。³御子にこの望みをかけている人は皆、御子が清いように、自分を清めます。

❖神様は、本当に、イエス・キリストは「神様を信じ、神様を愛する人を、愛してくださいませ。」愛するといっても「溺愛する」「甘やかす」のとは全く違います。日本古来の「愛憎」とは違います。また、「恋愛的な愛」と異なる「聖なる愛」です。恵みによって、苦しい現実を「希望と喜び」に転換する愛です。

わたしは、ヨハネ手紙一をわたしたちに向けて書かれた手紙と受け止めます。

❖今、もう一度朗読した「わたしたちは、今既に神の子とされています」という言葉は、真実に、わたしたちに向けて書かれ、告げられている言葉です。



わたしは、この言葉を真実に与えられている現実において、この「日本人と、日本にいるすべての人々」に対して、「聖書の福音＝喜びの訪れ」を告げなければならない、と改めて覚えました。

もちろん、私個人のことだけではありません。

わたしが牧者・牧師としてかかわる豊橋東田教会の一人一人、また、関係する日本基督教団の地区・教区、そして教団全体。更に、この地にあるキリスト教の諸教会。

キリスト者・教会の全てが、すべての人々に「神様の愛・神の国」を伝え、現実とする。どこまでも。

❖2011年、あの大地震を神学校卒業式の真っ真中に受け、すぐ、日本基督教団豊橋東田教会に赴任し、キリスト教会として立つしっかりした教会と、駐車場を含む敷地、牧師館に喜び、感謝しました。

そして、長老会で「福音伝道」を協議し、伝道費予算を思い切って大きく増やし、伝道のために「中日新聞折込」を具体化し、様々な伝道に関わる集会を計画し、実行してきました。

けれども、現実はとても厳しいものでした。新来会者は7万枚の新聞折込の結果として、わずか一人。

続いて打った新聞折込でも新しい来会者はまた一人だけ。

❖市内にある教団の教会と「伝道協議会」を立ち上げ「福音落語会」を開きましたが、新来会者はわずかで、伝道協議会は休眠しました。発想を変えての青年伝道は形だけになり赴任して8年、自分たちで「出来ることをしましょう」は、ダメと教えられました。けれど、一昨年从去年一人の受洗者が与えられています。

❖ぜひ、伝えたいことがもう一つあります。わたしが赴任する50余年前、豊橋市・豊川市などの諸教派・教会が連合してビリーグラハムの大きな大伝道集会を開き、かなりの人々が集まり、各教会で受洗したことを『豊橋東田教会百周年記念誌』を製作する過程で知りました。

けれど、その一方、その伝道イベントの中心であった豊橋東田教会の教職がスキャンダルを起こし、それが現在まで尾を引く不信感のもととなり、大規模伝道は閉ざされました。

❖わたしが赴任し、伝道不振の現状から、改めて「大伝道集会」を開きたいと意図し、各教会の協力を求め、講師をもとめましたが、聞かれる状態と遠く、適切な講師も得られないまま、「クリスチャン音楽家は……」という流れになり、まだ具体化への道はありません。

わたし自身、現在の状況から何としても力のある「伝道する講師」「人々を招ける力の有る教師」を招いて実現したいと願っています。個人的には私自身が主催者側に立ち、場合によっては人々に呼びかける講師としてでも実現したいとまで思っています。

❖主は、与えて下さる。わたしたちは「出来ること」でなく。必要なこと、大勢の人々に向き合う伝道をしましょう。「主による伝道」「自分を清め」「しなくてはならない、伝道に向かいましょう。」「私たちは『神の子』です。主なる神様に祈り、真実と真理をもって立ち上がりましょう。」

祈り 讃美歌(21) 356「インマヌエルの」

